

聖徳太子像

用明天皇の長男として生まれた聖徳太子（574～622年）は、6世紀半ばに中国大陸から日本に伝来した仏教の普及において中心的な役割を果たした人物である。

宮廷風の衣服を身につけ、笏を持った姿の、高さ 84.2cm のこの聖徳太子の坐像は、1121年に制作された。推古天皇の前で勝鬘経の講義をされた 35 あるいは 46 歳の聖徳太子をモデルとしている。